

令和5年度 学 校 評 価 書

山形県立酒田特別支援学校

学校教育目標					学びを楽しみ、よりよく生きる人を育てる					めざす子ども					明るく元気に楽しく学べる子ども					自分のことに自分で取り組む子ども					周りの人と仲良くする子ども				
経営の方針 全教職員が「聴覚障がい教育」「知的障がい教育」の2障がいに対応する特別支援学校であることを理解し、自らの専門性を高め、幼児児童生徒、保護者との信頼関係を大切にして、個別的教育支援計画・個別の指導計画に基づく指導を行い、教育目標の達成及び幼児児童生徒が確かに育つ学校となるように努める。 1 幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育の実施 2 地域の特別支援教育のセンター的役割の発揮																													
【評価】 達成度 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった 保護者、教員アンケートによる評価＜A～Dの4段階評価のうち、AとB合計の割合＞ 達成できた（8割以上） ほぼ達成できた（6～7割） あまり達成できなかった（4～5割） 達成できなかった（3割以下） （教）教務部（総）総務部（学）学習部（生）生徒部（健）健康安全部（進）進路部（相）相談部（研）研究部（就）就学支援センター（聴幼）（聴小）（聴中）（知小）（知中）（知高）																													
今年度の重点1 安全安心な学校																													
項 目					具体的方策・評価指標等					達成状況					達成度 項目番号		課題及び改善策												
① 事故の未然防止のための情報共有や対応（学部、生徒部、健安部）					○ 個々に応じた指導支援の共通理解（各学部） ○ 校内外における施設上の課題を把握し対応を進める。（知中） ○ 定期的に子どもたちの情報を共有する機会を設定する。（生） ○ 安全安心な環境の整備や危機管理マニュアルの活用を図る。（健） ○ 実態や教育的ニーズに応じた支援のために校内委員会を実施し、教育支援を検討する。（相）					○ 必要な指導者数の配置が難しい場合には計画を変更したり、他学部の協力のもとで指導支援を行った。（知小） ○ 改善箇所について各学部主任や事務部と共有し可能な改善を進めた。検討が必要な箇所を整理した。（知小中高） ○ 毎月の部会で各学部の子どもの情報を共有し、個々に応じた指導支援を共通理解を図りながら組織で対応できた。（生） ○ 各訓練等が細かいところまで計画・実施できた。消火体験、煙体験を実施することができた。（健） ○ 必要に応じて学部ごとに校内委員会の開催や担任への働き掛けを行い支援に活かすことができた。（相）					A 保護者2 保護者5 職員6		○ 必要な指導者の配置や場の工夫の上で、全校体制での指導支援を行う。（各学部） ○ 校内の設備で整備が必要な箇所について相談・検討する。（知小中高、教務、事務） ○ 職員間で情報交換や共通理解を図る時間を設ける。年度始に確認事項を周知し円滑に引き継ぐ。（生） ○ 服薬の確認、警報情報への対応等適宜関係者で連携し確認する。（健） ○ 関係する分掌部と連携し子どもの情報共有や協力した対応につなげる。ケース会議の活用をさらに図る。（相）												
② 様々な感染症対策を講じた教育環境（健安部、学部）					○ 感染症対策を講じた学習内容や形態を工夫する。（各学部） ○ 疾病予防や生活リズム、うがい・手洗いなどの習慣の確立を図る。（健）					○ 対策を継続しながら状況に合わせて対応し学習活動を行うことができた。（知小・知中） ○ 手洗い、うがいなどの言葉がけを日々行ったことで感染予防の習慣がついた。（聴中）					A 保護者2 職員7		○ 今後も感染状況を踏まえながら対策を行い活動を実施する。活動の精選、ねらいの明確化を行う。（各学部） ○ 感染予防が定着していない子どもについては引き続き声掛けなどの指導を継続していく。（健）												
③ 健康指導、健康の維持と体力向上の育成（健安部、学部）					○ 日常の体力づくりを継続する。（知中） ○ 運動量を確保するための効果的な指導の工夫に努める。（知高） ○ 健康な生活や体力向上への意識を高める機会を設ける。（健）					○ スポーツタイムの流れが定着し、意欲的に取り組む生徒が増えた。体力向上につながった。（知中・知高） ○ 肥満傾向の児童生徒を対象に「健康教室」という指導を行った。（健）					A 保護者3 職員5		○ スポーツタイムや体育、昼休みの活動・給食の量の調整・毎日の体重管理・こまめな保護者とのやり取りなどこれまでの取り組みを継続する。（知中）各学部全体でも運動機会を設定するなどの取り組みを行っていく。家庭や担任と連携しながら、食事や運動面での働き掛けを引き続き行っていく。（健）												
④ 働き方改革、職場環境改善の取り組み					○ 年間総時数の削減を検討する。（教） ○ 効率的な会議の運営を進める。（教） ○ 一斉退校日を設定し、実施する。					○ 短縮日課を含め年間総時数の削減を計画することができた。（教） ○ クラウドにアップロードできない情報があることが分かった。（教） ○ 校内倫理委員会が中心となり、実施当日朝に一斉退校を呼びかけ実施できた。					A 保護者1 職員14 職員15		○ 次年度も引き続き年間総時数の削減を検討していく。（教） ○ 引き続き効率的な会議の運営を検討していく。（教） ○ 次年度も一斉退校日を効果的に活用し、職員のライフワークバランスの向上を目指す。												
今年度の重点2 専門性の維持・向上																													
項 目					具体的方策・評価指標等					達成状況					達成度 評価項目		課題及び改善策												
① 個のニーズに応じた教育の充実（教務、研究、学部）					○ 個別の指導計画の適切な目標設定や評価の実施に努める。（知高） ○ 個別的教育支援計画の変更について直接保護者から修正してもらい活用する。（教） ○ 学びの履歴シートを活用し、学習の状況や課題を把握する。（研）					○ 目標の設定や評価を学年や作業班で検討し、指導ができた。（知高） ○ 個別的教育支援計画を適切に活用することができた。（教） ○ 学習内容表と学びの履歴シートを利用したことで状況や課題の把握につながった。（研）					A 保護者1 保護者3 職員1		○ 学部会、学年会で生徒の目標・課題、指導の在り方等について話し合いを持ち、情報共有を丁寧に行い指導支援する。（知高） ○ 個別的教育支援計画の修正箇所の整理と確認を次年度担任が確実に行うよう引継ぎを周知する。（教） ○ 学びの履歴シートの文言「実施済み、継続して取り組む内容、未実施」を参考に習得状況を判断する。（研）												
② 教員の専門性の向上（教務、進路、相談、学部）					○ 実態に応じた聴覚活用指導を行う。生活全般を通し言葉の獲得や言語概念の形成を図る（聴） ○ 各種研修の計画・運営を行う。（教） ○ 職員研修の計画・実施を通し進路指導について各学部と連携する。（進） ○ 特に外部の相談に応じる前の情報収集及び事例検討の時間を確保する。（相）					○ 言葉の研修、発音の研修、外部講師の研修、研究授業を通して、学ぶことが多かった。（聴） ○ 現職研修に関しては、学校全体から協力を得て運営できた。（教） ○ 進路研修では、外部講師からオンラインで聴覚に関わる研修を実施できた。（進） ○ 巡回相談の前に検討することはできなかったが、報告は部会で共有することができた。（相）					A 保護者3 職員8		○ 研究と関連、研修内容の充実を図り指導法向上に努める（聴） ○ 職員研修については研修内容や参加の仕方を検討し計画する。（教） ○ 各学部と連携しながら聴覚部・知的部のニーズに合わせた保護者研修を充実させていく。（進） ○ 相談部員が相談業務をできるように体制を整えて、できる限り複数体制での巡回相談を行い、巡回相談や外部での助言などの経験を重ね、専門性を高めていく。（相）												
③ 日常的な授業改善（研究、学部）					○ 学力定着を図る指導支援に努める。（聴） ○ 学習のねらいを明確にした指導支援。（知高） ○ 日常生活や卒後の生活とのつながりを大切な視点にして指導内容を考えていく。（研） ○ 共有教材の管理について定期的に声をかけ実施する。（学）					○ 日常のかかわりの中で、子どもの言語力、思考力を伸ばす、引き上げる教員のかかわりをさらに行う必要がある。（聴） ○ 指導者によって指導・支援の内容が統一されていない場面があった。（知高） ○ 各学部で大切にしている日常生活とのつながりを理解しながら研究を進めることができた。（研） ○ 共有フォルダの運用を継続した。（学）					A 保護者1 職員9		○ 教員一人一人が、言葉についての意識をさらに高くもち、子どもを伸ばす働きかけをする。（聴） ○ 個別の指導計画の様式2の計画を元に、定着を目指すための目標と手立てを明確にし、共有する。（知高） ○ 学部で目指すもの（大切にしたいこと）が違うということ、それぞれ大切にしている力が何なのかということをお互いが知って学校研究を進められるようにする。（研） ○ 定期的にフォルダ内の状況を確認して充実した活用につながる働きかけを行う。（学）												

今年度の重点3 早期からの自立と社会参加に向けた進路指導				
項 目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度 評価項目	課題及び改善策
① 早期からの進路指導の充実 (進路部、学部)	○ 個に応じた進路指導や自己実現への学習を計画し実施する。(聴中) ○ 3年間の成長を見通した進路指導の充実を図る。働く態度を育てる指導支援を行う。(知高) ○ キャリア教育全体計画のもと、個々の障がいや発達段階に応じた適切な進路指導を行う。(進)	○ 実態に合わせた学習や体験を実施し課題を把握することができた。(聴中) ○ 実習や実習報告会の取り組みが、生徒自身が進路を考えるきっかけになった。(知高) ○ 進路だよりの作成、キャリア教育計画の見直しを行うことができた。(進)	A 保護者5 職員2 職員10	○ 情報共有を大切にして、長所を伸ばし課題改善に向けた指導ができるように年度始めに主任と部長間で確認を行う。(聴中) ○ 実態に応じて個別面談等、本人も一緒に参加する。(知高) ○ 小中高を交えた意見交流会を実施して今後の見通しなどの情報共有を進めていく。卒業後を見越した必要な力を育てる指導支援を進めるようにする。(進)
② 将来の姿を見据えた力や心を育てる指導 (生徒部、進路部、学部)	○ 基本的な生活習慣の育成を目指し、個別の指導計画をもとに個に応じた適切な指導・支援を行う。(知中) ○ 社会に出たときの必要な力や好ましくない行動などを理解して、適切に行動できるように指導支援を行う。(知高) ○ 望ましい人間関係の形成に向けた指導の機会を大切にし、チームで子どもの育ちを支える。(生) ○ 本人の実態に応じた職場見学や体験、産業現場等における実習が行えるよう計画し、実施する。(進知高)	○ 授業中の言葉遣いや返事、姿勢などに学部間で共通した指導意識をもち、卒業後の姿を見据えた進路指導につなげることができた。(知中) ○ 機会を逃さず、生徒と一緒に確認しながら取り組むことができた。(知高) ○ いじめアンケート実施を受け、早期の対応を行った。年度途中から幼児児童生徒について、職員間での共通理解の場を設けた。(生) ○ 本人、保護者と相談しながら実施できた。事業所の状況に合わせて職員の体制を確認しながら実施できた。(知高)	A 保護者5 職員2 職員4	○ 学部全体でのルールを定め、これを土台に個の実態に応じた指導体制を学部間で共有していく。(知中) ○ 自分の身の回りのできることとできないことをチェックしながら、機会を作って自分でできるように繰り返し取り組む。(知高) ○ 職員みんなが同一歩調で取り組む雰囲気を継続する。指導支援の方向性を具体的に発信し、体制への協力を進める。(生) ○ 実態に応じて必要な事例では進路担当、主任等の協力も得ながら対応する。相談しやすい状況づくり、情報提供に努める。(進)
今年度の重点4 保護者・関係機関との連携				
項 目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度 評価項目	課題及び改善策
① 保護者や地域に対しての障がいの理解・啓発 (教務、総務、学習、進路、ICT、学部)	○ 授業参観や学校公開等を通し、家庭・鳥海学園・関係機関等との共通理解と連携を図る。(教務) ○ PTA役員と事務局が連携し、主体的に活動ができるよう企画運営を支援する。(総) ○ 校外作品展に参加する機会を通し制作に計画的に取り組み、地域への発信を行う。(学) ○ パンフレット配付や訪問を通して周知を図る。(就) ○ ホームページでの情報発信を行う。(I)	○ 感染症対策のもと、授業参観や学校公開を実施した。状況に応じ学園とのケース検討会を行った。(教務) ○ 感染状況に応じた活動を役員と事務局が連携して検討し、改善策を出し合いながら実施できた。PTA広報を発行し、地域にも回覧した。(総) ○ 動き出しが少し遅れることもあったが、計画通り作品展に出品した。(学) ○ 市町教育委員会を訪問してパンフレットを配付できた。(就) ○ 学部ごとの担当者が中心となり、行事等の情報を発信した。(I)	A 保護者5 保護者6 職員11 職員13	○ 保護者の理解を深めるための授業参観の設定を工夫する。年度始めまたは必要に応じて学園との連絡調整を行う。(教務) ○ 保護者の負担軽減の点から役員選出方法、PTA広報の発行に関わる業務の見直しを検討していく。(総) ○ 担当へ早めに確認し、余裕をもって作品展等の準備に取り組むことができるようにする。(学) ○ 庄内地区の他にも新庄・最上地区の教育委員会等を訪問、配布を検討をする。(就) ○ 計画時期に発信できるように各行事の実施要項等に掲載計画を明記し、学部担当に働き掛ける。(I)
② センターの機能の充実 (相談、就センター)	○ 関係機関との連携を図り、巡回相談や就学相談等に適切な支援を行う。(相) ○ 関係機関とオンラインの活用も含め連携を工夫する。(就)	○ 学部等からの協力を得て相談部員が相談業務を行うことができた。(相) ○ 要請に応じてオンラインでの相談支援を定期的に実施できた。(就)	A 保護者4 職員12	○ 相談前に事例の検討を行う機会を設ける。(相) ○ 必要があれば、他の市町村とも実施する。(就)
③ 交流及び共同学習の推進 (学部、ICT)	○ 西荒瀬保育園との交流を計画的に実施する。(聴幼) ○ 居住地校や西荒瀬小との交流学习を計画的に実施する。(聴小) ○ 知中学部や居住地校交流及び共同学習を計画的に実施する。(聴中) ○ 西荒瀬小学校等との交流学习を計画的に実施する。(知小) ○ 校外でのバザー、ボランティア活動で地域との交流を進める。(知中)	○ 主任が中心となり活動計画を改善しながら同年齢と集団活動の交流を進めることができた。(聴幼) ○ 居住地校と連絡調整を行いほぼ予定通り実施できた。西荒瀬小とは学部、学年ごとにも交流を実施した。(聴小) ○ 遊佐中学校との居住地候交流が実施できた。(聴中) ○ 西荒瀬小と同学年での交流でき、地区婦人会と魚さばき交流を行うことができた。経験の拡大が図られた。(知小) ○ 校外でのバザー、ボランティア活動で地域との交流を進めることができたが、悪天候のため実施できなかった。(知中)	A 保護者4 職員13	○ 交流のねらいを明確にして進める。西荒瀬小とは学年の交流も年度始めに調整して計画的に行う。(聴幼・小) ○ 学校間交流について検討する。(聴中) ○ 保護者に学校としての交流学习について説明を行う。(知小) ○ 校外でのバザー、ボランティア活動で地域との交流を予備日を入れて計画する。(知中)

＜学校評議員会より＞

- ・ 感染防止対策を行いながら子どもの活動や相談等、要望に応えよう取り組んでいることがよく分かる。続けてこられたのはこれまでの蓄積や地域との「つながり」の成果であると考える。
- ・ 経営テーマに「つながり」と設定し保護者や地域、関係機関との連携をよく図っている。今後も現状でできる方法を工夫、模索しながら、地域や関係機関と積極的に交流してほしい。
- ・ 障がいの有無にかかわらず地域で活動していくことができるように、幼児児童生徒や保護者にとって安全安心な環境を整えながら、今後もつながりを意識した学習を推進していくことを期待する。